

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標 1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

■施策 1 バス路線の維持と継続的な見直し

○国際興業バス 4 路線に対する補助金の交付

地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき、補助金を交付した。

補助金交付路線：国際興業バス 湯の沢線、名栗車庫線、中沢線、間野黒指線

○国際興業バス湯の沢線での貨客混載事業の開始

2/25～国際興業(株)とヤマト運輸(株)が連携し、バス利用客とあわせて宅配便を載せて運ぶ貨客混載事業を湯の沢線を開始した。(埼玉県で初の事例)



■施策 2 観光やイベント等による公共交通利用促進策の実施

○「わくわく名栗クラブ」による利用促進事業の実施

「わくわく名栗通信（第8号）」の発行、路線バス内での配布

○お散歩マーケットの開催（2回）

春：5/5 開催、1,160 名参加 秋：11/17 開催、803 名参加

○「路線バス途中下車の旅の会」による利用促進事業の実施

上水道の遺構と吾妻峡と勝軍地蔵をたずねて秋を満喫 10/29 実施、8 名参加

○「原市場地区公共交通を守る会」による利用促進事業の実施

神社ヨガ体験 & 健康フレンチの旅 9/29 実施、20 名参加



△神社ヨガ体験 & 健康フレンチの旅



○「MOOMINVALLEY PARK Ticket & Travel Pass」の発売

パーク入園券、西武鉄道 1 日フリー乗車券、駅からパークまでの往復バス乗車券 3 点セットになった企画乗車券を訪日外国人向けに発売した。

発売：西武鉄道(株)、(株)ムーミン物語、イーグルバス(株)、国際興業(株)、西武バス(株)

■施策 4 需要に対応したバス路線の見直し

○国際興業バス「天覧山下」停留所 バス停車帯設置

天覧山などの観光拠点等を通るバス路線の経路変更（H31.3 実施）の一環として、「天覧山下」停留所にバス停車帯を整備した。



○国際興業バス「畑中」停留所 移設

近隣住民からの要望により、周辺道路の交通安全の観点から、国際興業バス「畑中」停留所の移設を行った。

基本目標 2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

■施策 1 バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進

○わかりやすいバス案内看板の設置

飯能駅北口の既存の案内看板をリニューアルし、メツァ来訪客などの観光客に市内の他の観光スポットを紹介し、路線バスでの来訪を促進する。



○バスルートマップの増刷、配布

10,000 部増刷し、市内の公共施設、商業施設等で配布した。

■施策 2 市民・地元企業を巻き込んだモビリティマネジメントの実施

○市内「ノーマイカーデー」の実施

市内に在勤・在住者に対して、通勤時等のマイカー利用を見直してもらうため、「2019 はんのう市ノーマイカーデー」を実施した。市内の事業所のほか、飲食店舗等に協賛店として協力してもらい、参加者に対する特典を提供してもらった。

期間：12/1～12/31 参加者：768 人（12 事業所） 協賛店：25 店舗

■施策 3 マイバス意識の醸成

○「名栗ひななざりきっぷ」の発売

「飯能ひな飾り展」の開催にあわせ名栗地区のひな飾り会場を路線バスでまわられるセット券を発売した。



期間：2/25～3/3 ※3/8 から短縮、新型コロナウイルス感染防止対策のため。

価格：1,600 円 販売実績：29 枚

共催：国際興業(株)、(一社)奥むさし飯能観光協会、飯能市



○出前講座の開催（いずれも「持ち寄りサロン」主催）

どうする？どうなる？免許返納：8/20 開催、42 名参加

どうする？どうなる？免許返納（8月の続き）：11/19 開催、22 名参加

○はんのう生活祭での各事業実施（11/10 実施、国際興業(株)協力）

バスの乗り方教室（11 名参加）、運転手体験（170 名参加）

ぬりえコーナー（64 名参加）、公共交通利用啓発品配布



○第 2 回 ノリノリ！ のりものフェスティバルの開催

12/8 所沢市航空記念公園で開催。来場者：約 15,000 名 車両展示、各種イベント実施。ダイアプラン 5 市主催、交通事業者等協力。

■施策 4 公共交通利用のための利便性の向上

○イーグルバス(株) 交通系 IC カードサービス開始

3/14～日高飯能路線、メツァ直通線等で交通系 IC カードの利用が可能

○西武鉄道(株) 駅ホームに内方線付き点状ブロックを整備

元加治駅、東飯能駅に視覚障害者等の転落防止のため整備した。

○駅ホーム声かけサポート講習会の開催

11/15 開催、26 名参加 視覚障害者の駅ホームからの転落防止のため実施。

仏子駅で実施。飯能市・入間市主催、埼玉県共催、西武鉄道(株)協力

基本目標 3：生活を支える公共交通手段を「つくる」

■施策 1 「おでかけ」を守るための検討

○飯能市地域公共交通対策協議会(分科会)の開催（法定協議会）

第 9 回～第 10 回協議会の開催、第 7 回～第 8 回バス事業者分科会の開催

○「暮らしやすい地域の移動・交通分科会」の新設

市内の公共交通の不十分な地域の移動手段について、交通分野と福祉分野が連携して検討、導入する分科会を新設した。3/13、第 1 回分科会を開催した。

暮らしやすい地域の移動・交通分科会の役割

- ・公共交通の不十分な地域の移動手段についての検討と導入
- ・ラストワンマイルの移動手段について検討と導入
- ・様々な施策の中から地域の実情に合った移動手段を住民が主体的に導入・確保できる環境整備

○各地区による主体的な運営組織づくり

各地区の福祉推進組織等で移動手段導入の検討を進めた。

・吾野地区たすけあいがの「らくだ号」（無償）の運行支援

・介護第 1 層協議体での市内の移動交通に関する意見交換、要望書提出

○公共交通空白地有償運送「奥武蔵らくらく交通」

NPO 法人奥武蔵グリーンリゾートによる公共交通空白地有償運送事業。

運転者 4 名追加、計 10 名体制。

飯能市公共交通空白地有償運送支援補助金（初年度事業）活用。

令和元年度「奥武蔵らくらく交通」実績

運行回数：472 回 輸送人員：580 名 走行距離：3814.8 km

登録者数：98 名（男 35 名 女 63 名）

■施策 2 社会資源の活用の検討

○奥武蔵小学校スクールバス一般住民の混乗制度

H30 年度に吾野小スクールバスで実証実験を実施。今年度から本格運行した。

吾野小、東吾野小及び西川小の統合により、新しいルートで運行した。

令和元年度 実績

期 間：令和元年 6 月～令和 2 年 3 月

運行日数：登校 151 日、下校 141 日（うち 2 便運行あり 105 日）

登録者数：124 名（+16 名）

利用者数：延べ 37 名（週 1.12 名 ※前年度 週 2.35 名）

※台風 19 号の影響により、一部ルート通行不可（11/25 一部復旧）

※新型コロナウイルスの影響により、3/5～運休



○社会資源の活用の検討

飯能市社会福祉協議会で総合福祉センターの送迎バスの乗込調査を実施した。